

1 次のお話を読みましょう。

十一月は霜しもも降りるほど寒く、冬の始まりでもありますが、真冬に比べると穏おだやかで暖あたたかい日もあります。この秋の終わりから冬の始まりにかけての暖かい日を、小春日こはるびより和と呼びます。小さな春と書きますが、冬の前の暖かい日を表す言葉です。① 、ヨーロッパやアメリカにも小春日と同じような意味で使うインディアンサマーという言葉があります。十一月はこのような② 日があれば、北風が強く吹き付ける寒い日もあります。冬の到来を告つげるこの風かぜを、木枯こがらしと呼びます。このように、寒い日や暖かい日を繰り返しながら秋から冬へと変わっていきます。

2 次の問題に答えましょう。

1. 小春日和とは、どのような日の事ですか。

秋の終わりから冬の始まりにかけてのあたたかい日

2. ① に入るつなぎ言葉（接続語）を選びましょう。

ア. しかし イ. ところで ウ. また エ. だから

3. ② に当てはまる言葉を選びましょう。

ア. 暖かい イ. 寒い ウ. 涼しい

4. 線③とは、どのような風ですか。風の名前を【 】に書きなさい。また、その風の特徴を に合うように書きなさい。

名前【 】 **こがらし** 【 】

冬の到来を告げる **強い（強くふきつける）北** 風のこと。

